TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2020 年 10 月 17 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙

検証テーマ：中曽根元総理の葬儀 、オープニング、イラク戦争開戦前夜の内部告発者の映画が公開
【特集】日本学術会議任命拒否問題のキーマン
【特集】森友の公文書改ざん官僚たちは妻に何を語ったのか？

報道トピック一覧

・中曽根元総理の葬儀
・オープニング
・東海大野球部員が両で大麻使用
・石川県の温泉街で男女三人が相次いで熊に襲われる
・パリでムハンマド風刺画を教材として使った教師が殺害される
・イラク戦争開戦前夜の内部告発者の映画が公開
・長崎市の繁華街の飲食店などで火災
・3 人殺害の確定死刑囚が拘置所内で死亡
・欧州各地で第二波への新たな措置
・東京新宿区で女子児童にわいせつ行為をした疑いで無職男性を逮捕
・【特集】日本学術会議任命拒否問題のキーマン
・【特集】森友の公文書改ざん官僚たちは妻に何を語ったのか？
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・中曽根元総理の葬儀　：結論→特に問題なし

中曽根元総理の葬儀について以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「去年 11 月に亡くなった中曽根康弘元総理の内閣と自民党の合同葬が都内に行われました。」

菅義偉総理「中曽根先生は次世代の我が国の姿を見据え、必要ない改革を実行され、国際社会の平和と繁栄に貢献をされました。」

ナレ「1982 年に総理に就任した中曽根氏は国鉄の分割民営化を推し進めた他、アメリカのレーガン大統領とロンヤス関係と呼ばれる関係を築き日米関係の改善にも貢献しました、合同祭には秋篠宮様ご夫妻や眞子さま、佳子さまなど皇族の他、菅総理や大島衆議院議長など三権の長、森元総理や小泉元総理など総理経験者も参列されました。中曽根元総理の合同葬儀を巡っては文部科学省が全国の国立大学などに弔旗の掲揚や黙祷などの通知を出していたことが波紋を呼んでいました。大学の対応は分かれていて JNN の取材では中曽根元総理の出身大学、東京大学や千葉大学、東京工業大学などが弔旗を掲揚する方針を示し、。一方で東京学芸大学や横浜国立大学などは弔旗の掲揚などは行わないとしていました。秋晴れの青空が広がった北海道大学では正門近くの事務局の建物の上に日の丸の半旗が掲げられましたが、今日は北日本を除く広い範囲で雨模様となったため、東京大学など復数の大学が掲揚を取りやめた模様です。一方、霞ヶ関の中有往完町では雨の中予定通り弔旗が形容されました。文部科学省では日の丸とともにポールの先端に黒いリボンを付けた弔旗が掲げられました。外務省や法務省、国

土交通省などでは庁舎内の掲揚台に半旗が掲げられました。最高裁は当初、弔旗を掲げる予定でしたが、雨天のため取りやめています。」"

　このトピックに当てられた時間は 143 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「改ざんするとは辞書を引きますと元の文書を自分の都合のいいように書き直すこととあります。もともと 105 人の日本学術会議の名簿は 99 人になっていました。理由は示されていません。改ざんで決して忘れてはならないのが森友学園問題で公文書改ざんを黙せられた職員が自殺したという重たい事実です。特集でお伝えします。」とコメントしていた。

このシーンに当てられた時間は 25 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・イラク戦争開戦前夜の内部告発者の映画が公開：結論→特に問題なし

　日下部キャスターの「17 年前、イラク戦争の開戦前夜に国連での盗聴計画を暴露し逮捕された女性をモデルにした映画が今公開されてます。情報漏えいという犯罪か、それとも正義の内部告発か、国の違法行為に葛藤した事件の当事者の女性を取材しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"キャサリン・ガン「政府とこの国を裏切りました。」

ナレ「イギリスの情報機関に勤めていたキャサリンさんはある日、アメリカ政府の最高機密メールを目にします。」

キャサリン（映画）「NSA（アメリカ国家安全保障局）からのメール見た？」

男性職員（映画）「アメリカが国連安保理を盗聴しろだと。」

ナレ「当時、アメリカとイギリスはイラク、フセイン政権への攻撃を計画、国連で賛成票を取り付けるため、盗聴工作を企てているという機密情報でした。」

キャサリン「とても激しい怒りを感じ、私達にこんなことをしろと言ってきているのが非道で非倫理的、違法だと思いました。」

キャサリン（映画）脅しと嘘に基づいた戦争なんて許せない。」

ナレ「キャサリンさんはこのメールを新聞社へとリークします。記事の反響は大きく、職場では情報漏えいの犯人探しが始まりました。」

キャサリン（映画）「私がやりました。」

ナレ「自ら名乗り出たキャサリンさんは逮捕されることに。」

刑事（映画）「君は政府に仕えている身だ。」

キャサリン（映画）「いいえ、正確には違います…」

刑事（映画）「違う？」

キャサリン（映画）「政府は変わる、私は国民に仕えている。」

キャサリン「公務員は時の政権与党のもとで働かなければいけませんが、その給料は国民が払った税金ですから、公務員は国民のために働くものです。」

ナレ「戦争を止めなければという信念はかつて、広島で働いた経験から芽生えたといいます。」

キャサリン「お年を召した方にいろいろな話を聞き、戦争がどれほど恐ろしいものかを肌で感じました。戦争というのはまさに軍や軍需産業だけのためにあるものではないかと。」

ナレ「キャサリンさんの内部告発後、アメリカとイギリスは国連での多数派工作を諦め、国連決議なしに攻撃に

踏み切りました。」"
"キャサリン「私が報われたと感じたのは、国連がイラク侵攻の決議を許さなかったことです、私が機密メールを内部告発した後は国連の支持を得ずに攻撃するという彼らの企みは断たれました。」
ブレア元首相（2016 年）「攻撃プロセスの間違いを認めます。」
ナレ「後にイギリスではイラク戦争の検証が行われ、国連決議なしの攻撃について合法性はとても十分とは言えないと結論づけました。キャサリンさんは内部告発者として名誉が保たれたのです。」
長谷川美波（報告）「逮捕から 17 年、映画のヒロインとなったキャサリンさんですが、自分は幸運だったと強調し、世界中の政府機関で声を上げることが難しい内部告発者の保護を訴えています。」"
　このトピックに当てられた時間は 248 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】日本学術会議任命拒否問題のキーマン：結論→やや問題あり
　膳場キャスターの「日本学術会議の任命拒否問題、今週も波紋が広がっています。」とのコメント、日下部キャスターの「6 人を除外したキーマンとは、更に学問の自由について改めて考えます。」"とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が特集で取り上げられていた。
"膳場貴子「菅総理と日本学術会議の梶田会長との会談が急遽行われることになりました、6 人を任命拒否した理由が具体的に説明されるのでしょうか。」
ナレ「昨日、菅総理と初めての会談に臨んだ、日本学術会議の梶田隆章会長。会員候補 6 人の任命を拒否した理由の説明や再任を求める要望書を総理に手渡した。しかし。」
膳場貴子「6 人の任命拒否が明らかになってから初めてお会いになると思うんですけれども具体的にどういったやり取りをされました、その問題については。」"
"梶田隆章（日本学術会議会長）「6 人の件ですか、これについては本当に今日の主要な目的と思って、もちろんそれは重要なんですけれども、それとともにあのこういう機会なので、むしろ学術会議のあり方等について意見交換させて頂きました。」
ナレ「焦点となっている任命拒否の理由について総理に返答は求めなかったという。一方、菅総理は。」
菅義偉（総理）「学術会議が国の予算を投ずる機関として国民に理解をされる存在であるべき、こうしたことを申し上げました。」"
"ナレ「プロジェクトチームを立ち上げ学術会議のあり方そのものを問う動きを強める自民党。その顧問を務める甘利税調課長がブログに投稿した学術会議に関する記述が今週、物議を醸した。発端は今年 8 月の投稿。」
甘利明ブログ「日本学術会議は防衛省予算を使った研究開発には参加を禁止じていますが、千人計画には積極的に協力してまいす。」"
ナレ「千人計画とは中国がすぐれた科学者を世界各国から承知する事業だが、技術の流出や盗用、軍事転用なども懸念されている。今回任命拒否問題が報道された直後からインターネット上では日本学術会議が千人計画に積極的に関わっているとの情報が、甘利氏のブログなどを引用する形で一気に広まった。だが、学術会議の大西元会長はこれを全否定した。」
"大西隆（日本学術会議元会長）「学術会議が関係あるかのような悪質なデマが流されているということで、日本学術会議は全く関わりを持ちません。」
ナレ「加藤官房長官も。」
加藤勝信（官房長官）「中国の千人計画を支援する学術交流事業を行っているとは承知をしておりません。」"
"ナレ「現在、甘利氏のブログは次のように書き換えられている。」

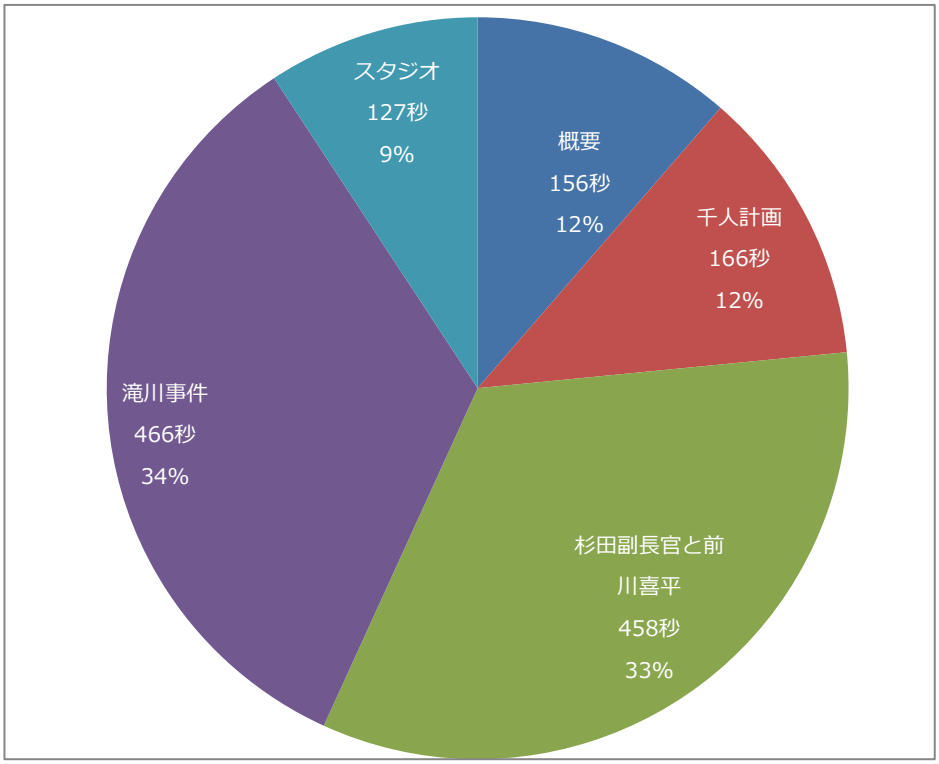
甘利明ブログ「日本学術会議は防衛省予算を使った研究開発には参加を禁じていますが、千人計画には関節提起に協力しているように映ります。」"
大西隆「こっそり訂正されたということですが、まだこのデマの方を受け取ったままになっている方もいる、と。」
ナレ「誤った情報により広がった混乱。そもそも任命拒否は誰の判断だったのか。」
（CM）
"ナレ「105 人の内、6 人だけを任命しなかったのは誰の判断だったのか。」
記者「総理がご覧になった段階では 99 人になっていたと。」
菅総理「あの、そういうことです、あの任命するリストってありますから。」
記者「その前の推薦する段階でのリストはご覧にはなったのですか。」
菅総理「いえ、見てません。」
ナレ「こう説明した菅総理だが、今週にはいり、急遽関与が浮上した人物がいた。杉田和博内閣官房副長官だ。杉田氏は今回任命できない人が複数いるという趣旨の説明を事前に菅総理にしていたという。第二次安倍政権発足以来、8 年近くに渡り官僚のトップに君臨する杉田氏、警察庁出身で中曽根内閣では後藤田正晴官房長官の秘書官を務めた、その後神奈川県警本部長などを歴任。」
杉田和博（神奈川県警本部長当時）「気合を入れてねしっかりと、それぞれの持場でね、仕事をするように、そういう意味合いの激励を致しました。」
ナレ「警備公安部門の主要ポストである警察庁警備局長に就任した 5 ヶ月後には地下鉄サリン事件が発生し、オウム真理教の実態解明を指揮した。」
杉田和博（警察庁警備局長、当時）「今日まで犯人の特定には至っておりません、現在、その裏付け捜査を実施をしているところでございます。」
ナレ「そして政府の情報機関である、内閣情報調査室を経て内閣危機管理官に官邸のインテリジェンスに当たるポストを担ってきた、その仕事ぶりについて杉田氏を知る警察庁幹部は。」
警察庁幹部 A「とにかく休まないでずっと仕事をしている。」
警察庁幹部 B「バランス感覚があり危機管理能力に長けた人。」
警察庁幹部 C「間違いなく安倍内閣が長く続いた立役者の一人だろう。」
ナレ「2012 年、第二次安倍政権で 71 歳で官房副長官に就任、その際にはこんな一幕もあったが、すぐに健康面での不安も一蹴。安倍氏や菅氏からの絶大な信頼を得ながら副長官として歴代 2 位の在職日数を記録するまでとなった。杉田氏はいかにして官邸の事務方トップに上り詰めたのか。」
官邸関係者「とにかく忖度が働く人。上に伝えるのが上手だし、政治家に対してこんなに低姿勢なんだと思ったことも結構ある。」
ナレ「さらに、2017 年からは中央省庁の幹部人事を司る内閣人事局の局長も兼務、安倍政権下で強固な関係を築いた菅氏とともに、数々の人事を手掛けてきたという、二人を知る政府関係者はこう語る。」
政府関係者「菅さんも杉田さんもとにかく人事が大好き。霞ヶ関をまとめるには人事だと本当に思っている。厚労省の村木さん抜擢や黒川検事長の定年延長も 2 人で決めた。」
ナレ「そのうえで学術会議の人選をめぐる杉田氏の関与については。」
政府関係者「杉田さんが菅さんの意向抜きで部下を使ってまとめたものを上げるというのはありえない、今回の問題はふたりとも確信犯でしょう。」"
"ナレ「文部科学省で事務次官を務めた前川喜平氏は。」
前川喜平（元文科事務次官）「これまでの姿勢の延長線所にあるだろうなと思いますね、今回の学術会議の会員任

命拒否っていうのはね。」
ナレ「自らも学術会議の問題を彷彿させるるような出来事に遭遇したという。2016 年 8 月文化功労者選考分科会の委員を専任するために前川氏は文科大臣の了解を得た候補者名簿を杉田官房副長官に提出した。その一週間後、前川氏は杉田氏から官邸に呼び出されたという。」
前川喜平「ここが控室ですね、呼ばれるまでここで待っているわけですよ、呼ばれるとここから入っていくわけですね、ここに座ってですね、で、ここに杉田さんがいてですね、こいつとこいつは外しなさいと言われて、具体的な名前を言われたんです。」
ナレ「杉田氏から候補者 2 人の差し替えを求められたという。」"
"前川喜平「これまで政府の方針に批判的なことを言っている人物じゃないか、こういう人物は入れてはいかん。」
金平茂紀「それは杉田さんの言葉。」
前川喜平「杉田さんがそう仰ったわけで、まぁ更にいうとこういう人たちが入らないようにはじめからちゃんとチェックしてからもってこいとお叱りを受けたわけですけどね、あぁこんなところまでチェックするのか、と、思いました。」"
"ナレ「前川氏は学術会議の問題は科学者の世界に限ったことではないと話す。」
金平茂紀「今の学術会議で起きていることはまだ入り口というか、。」
前川喜平「これはどんどんと色んな所に及んでいくと思います。君たちは政治的に中立でなければんらない、と中立性という言葉が魔法の言葉みたいになっていてですね、このままいくとね、もう、その表現の自由がどんどん潰されていくということになりかねないと思います。」"
ナレ「過去にも政治の介入が日本社会を揺るがす大問題となった、その時何が。」
（CM）
"日下部正樹「日本学術会議の問題でとかく引き合いに出されるのが戦前京都大学で起きた滝川事件です。」
ナレ「滝川事件が起きたのは満州事変で日本が国際的な避難を浴び、国際連盟を脱退した 193 年、当時の京都帝国大学瀧川幸辰教授が説いた学説がきっかけとなった。国家を転覆しようとする内乱罪について、よりよい社会を作ることを目的としているのだから、その動機自体は否定されるべきではない、などと主張した。これを政府は危険思想だとみなした。著書の一部を伏せ字にし、ついには発禁処分にした。更に当時の鳩山一郎文部大臣は教授に休職処分をいわ田した、学説以上に政府に対する姿勢が警戒されたと専門家は話す。」
西山伸（京都大学教授）「それに対する批判というのは彼は非常にオープンに語っていましたから、おそらくそれでまずマークされたんじゃないかな、と。」
ナレ「大学へのあからさまな介入に教授たちは猛反発、辞職する意志を示した。学生たちも決起する、激励文をしたため、教授たちに奮起を求めた。」
激励文「諸先生の奮起なくんば、学問の自由と学園の自治は永久に失わるるに至らん。」
ナレ「更に学生から 1300 人分の退学届が集まった。」
西山伸「これがその雛形ですね、学問の自由を失い、学園の自治を奪われたる大学にいささかの未練なし、と。」
ナレ「新聞はこの問題を大きな見出しを取って盛んに報じ、滝川教授の給食が決定したときには号外まで出した。」
日下部正樹「満州事変か、その前後から言論統制はひどかったし、みんな物を言えない時代なのかなというイメージしますけど、」
西山伸「あぁ、いやいやいや、左翼運動は弾圧されていましたけれども、それ以外の運動に関してはある程度語る雰囲気はありましたね、それが少しずつ段階、いつの間にかあらみたいな感じになるんですけれども。」
ナレ「京大では総長と法学部の教員の 3 分の 2 が辞職を申し出る事態にまで至った。その時の声明文には学問の

自由の意義が強く掲げられている。」
声明文「大学の使命はもとより真理の探求にある、真理の探求は一に教授の自由な研究に待つ。」
ナレ「滝川事件については当時の知識人の関心も高かった。これは岩波書店の創業者、岩波茂雄氏が京大の教授に当てた手紙だ。」
西山伸「結局法学部の教員たちが分裂してしまうということで、それをまぁ嘆く手紙を。」
ナレ「だが、弾圧により自治を崩壊させられた京大は政府に対し萎縮していったという。」
西山伸「京都大学の雰囲気は変わったと思いますね、資料を見てみると、やはりもうこのあと要するに戦時体制がどんどん深まっていくんですけれども、かなり先取り先取りでそういった政策を大学の中でも実行していくようになっていく、というところがやっぱり結構見えてきますね、むしろ東大とか他の帝国大学は抵抗をずっと続けていくんですけれども、そういう抵抗をする力は相当弱まりますね。」
ナレ「滝川事件の後、更に帝国主義的な風潮が高まり、日本は戦争へと突き進んでいくこととなる。終戦の翌年、黒澤明監督は最初の作品として滝川事件を題材に取り上げた、劇中では当時の弾圧ぶりを嘆いて歌う当時の学生たちの様子が描かれている。」"
"劇中の学生「ここはお江戸を何百里、離れて遠き京大もファッショの光に照らされて、自治と自由は石の下。」
ナレ「学問に対する弾圧の象徴として語り継がれる滝川事件、だが戦後にはそこから新たな流れも生まれた。」"
"金平茂紀「立命館大学の戦争と平和について考えるための展示館、ミュージアムですね、このあたりの一角が戦前戦中のコーナーでそこには学問思想への弾圧と言った一角もあります、もちろんこの滝川事件についても扱われています。立命館大学はこの滝川事件で京都大学をやめた多くの教員を受け入れたんですね」
ナレ「京都大学から立命館大学に移り戦後、学長となった末川博氏、学問は人間の幸福と世界平和のためにあり、それを担う学生の命が戦争で奪われてはならない、との考えを訴え続けた。」
末川博（立命館大学総長、当時）「未来を信じ、未来を生きる、そこに青年の声明があるんだと。」
ナレ「末川氏は日本学術会議の第一期会員だ。第一回の総会で採択した国の平和的復興と人類の福祉増進のために貢献する、との決意表明、この草案を作ったのは末川氏だった。戦後の日本国憲法で保障された学問の自由の確保も明記された。末川氏は学問の自由を守る意味をこう書き残している。『学問の自由を奪うことは、大衆の真実を見る目を塞ぎ、大衆が本当のことを語る口を塞ぎ、大衆が政治などに対する批判をするのを封じることになるのである。諸君が油断して不断の努力を怠るなら、いつまた私達が体験したような状態になるかも知れない。』」
（CM）
VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"膳場貴子「日本学術会議の設立の経緯を知るほどね、今直面している任命拒否のことの重大さというのが浮き彫りになってくるような気がするんですね、そんな中昨日急遽菅総理と面会することになった学術会議の梶田会長については正直拍子抜けしてしまいましたね、当事者のトップとして、要望書を携えていったのに、総理に任命拒否の説明すら求めなかったということですからね。」
金平茂紀「ちょうど僕ね、菅首相と梶田会長が官邸で会っていた直後に前川喜平さんのインタビューを撮っていたんですけれどもね、梶田会長の姿勢について前川さん、こう仰っていましたね。『情けない、やはり総理に会うならとにかく 6 人の任命拒否の理由を問いただすべきでしょう。むしろちゃんとした返事があるまで帰らないくらいのつもりでいかないとおかしいですよ、それをほとんど話題にしなかったのが信じられない。』まぁ元文科事務次官としてですね、怒りを顕にしていたということですね。」"
日下部正樹「ご覧いただいたね滝川事件の際の教授や学生たちの動きに比べるとどっちが現在でどっちが過去かちょっとわかんなくなってしまいますよね、滝川事件当時というのは軍が統制を強めていた時期でもありますし、

そもそも明治憲法かでは学問の自由の記述がないんですよ、そんなときに教授や学生が学問の自由を声高に叫んでいる、正直言ってこんな事ができたんだという思いさえしました、まぁ明治憲法にはなかった学問の自由が現行憲法では 23 条として独立した形で規定されているわけです、どうも GHQ の草案でも学問の自由というのはいくつかある自由の中の一つに過ぎなかったわけですけれども、ですから現行憲法がですね、学問の自由をなぜ、単独で設けたのか、きちんと考えなければいけないと思いますね。」

この特集に当てられた時間は 1373 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



滝川事件については、そもそも当時の情勢が血盟団事件だとか、515 事件あるいは 226 事件など、昭和維新や社会改良を大義とした暗殺事件や暴動、クーデターなどで現職の政財界の要人が殺害されるという事件が相次いで発生したような情勢下であったにもかかわらず、報道中では満州事変や連盟脱退のような外交上の情勢不安のみが時代背景として伝えられていて国内の治安の問題については全く伝えられていなかった。また、滝川事件で京大を去った教授の多くが立命館大学に受け入れられた、ということは政府公権力によって公費が投入された機関がいざというときに権力に対して弱腰にならざるを得ない一方で、政府公権力から独立して運営ができる団体こそが、いざというときに公権力に対しても強い態度に出ることができ、より良く自由を保障することができるということを物語っているようにも見えるが、そうした解釈や側面は伝えられなかった。

このように、滝川事件に対する取り上げ方は極めて一面的なものであり、そうした意味では放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」および同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点では不十分なものと言わざるを得ない。

・【特集】森友の公文書改ざん官僚たちは妻に何を語ったのか？：結論→非常に問題あり

膳場キャスターの「次の特集です。近畿財務局の元職員、赤木敏夫さんが自殺した問題。妻雅子さんが起こした裁判が今週、水曜日、大阪地裁で開かれました。」とのコメント、金平キャスターの「報道特集は俊夫さんの元直属の上司、7 人の音声を独自に入手しました。何が語られていたのでしょうか？」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「森友学園の土地取引をめぐる公文書の改ざんで、自殺した赤木俊夫さん。先月 30 日、妻、雅子さんと弁護士が、俊夫さんの勤務状況に関わる資料を確認するため、近畿財務局を訪れた。」
ナレ「しかし」
赤木雅子さん「辛いですね、何を先生が聞いても、全部「ノーコメント』で、『訴訟に関わる、訴訟に関わる』って、なんか国会議員みたいな、なんか政治家みたいな、なんか受け答えがすごく、まあ、かわいそうな気がしました。」
ナレ「雅子さんが国などを相手に起こした裁判。今週水曜日に開かれた法廷でも、情報を開示しない国の姿勢は、変わらなかった。」
ナレ「俊夫さんの死に関わる資料について、国は、『改ざんの経緯などの事実については、争いがないので、回答する必要はない』と主張した。」
ナレ「これに対し、雅子さんは、」
雅子さん（ナレ）「お願いですから、私と夫の立場に立ってください。回答がどれだけ遺族の心を傷つけるか想像できると思います。私は真実が知りたいだけです。」
ナレ「俊夫さんの自殺は何が原因だとされたのか。その情報も雅子さんに明らかにされてこなかった。」
ナレ「公務員が公務執行中などに遺族に年金などを支払う公務災害補償。認定の理由を示した人事院の書面は、ほとんど黒塗りに。」
ナレ「同じ書類について、近畿財務局にも開示を求めたが、新型コロナを理由に、1 年近く開示できないとされた。」
赤木雅子さん「私は、何があって、それがどれがどれだけおもことだったかによって、これだけ苦しんで死を選ぶということになったと思うので、あの一何があったのかをすべて知りたい。それとこの、夫の書いたものと照らし合わせたいので、あの一、ぜひ教えてほしいし、誰が何を言って、どういうふうに改ざんを指示してきたのかを、知る権利が私にもあるし、あの一、国家公務員なので、全員が知りえる権利がると思います。」
ナレ「これは、俊夫さんが付けていた手帳のコピー。改ざんを命じられた当時の行動がつづられている。」
ナレ「国会が森友問題で紛糾した２０１７年２月、職場を出る時間が深夜になり、連日タクシーの利用が続いていたことがわかる。雅子さんは、そこに当時の様子を書き添えている。」
金平「『このころは、〇〇さんのことを、信頼し、助けるために朝帰りをしても、定時に出勤し、やる気がみなぎっていた』ってこれは後から、雅子さんがこのメモを、見て、書き継ぎなさったんですか？」
雅子さん「はい。そうです。はい、タクシー使って深夜になってもいいから作業しろっていう命令があったそうです。」
ナレ「４月になっても森友学園の土地取引をめぐる会計検査員の調査に対応するため、深夜に及ぶ勤務が続いた。」
ナレ「やがて、俊夫さんから笑顔が消える。雅子さんは異変に気付いていた。」
雅子さん「もう全然元気はなくて、あのその当時は、深夜とかその長期勤務で、私は体調が悪いんじゃないかなーとは親戚にも伝えていたんですよ」
金平「過労で？」
雅子さん「過労でしんどいんですよーて言ってたけど実は、その、やってはいけないことをやっているということ、私は気付いていたので、とても複雑だったんですけれども、」
ナレ「6 月、大阪地検特捜部が来庁。俊夫さんは特捜部は狙いを定めた相手を、必ず罪に陥れると怯えるようになった。しばらくしてカウンセリングに通い始め、職場を休み始めた。」
雅子さん「足音聞こえるじゃないですか。あのそういうのをゴミ捨てで朝早く歩いている方の足音と聞いたら、

『検察が今もうきてるわ』とか、もう普通じゃ意味がわからないような会話をずっとし続いて」
金平「被害妄想に」
雅子さん「そうですね。なんかヘリコプターが飛んでくると、あー僕のこと狙っているってカーテンの隙間から、あの、空を見上げてみたりとか、」
ナレ「年が 明けると、手帳の書き込みはほとんどなくなった。雅子さんのメモには、」
メモ「3 月 3 日六甲山に 4 時間こもる。」
雅子さん「私は家を空けたんですね。 で、その間に夫は六甲山に歩いて行ったんですよ。で、途中から全然連絡が取れなくなって、あーこれおかしいなと思って急いで家に帰って、車に乗って探しに行ったんですね。」
ナレ「そして、六甲山のケーブルカー乗り場の近くで、呆然と立ちすくむ夫を見つけたという。」
雅子さん「車に無理やり乗せて、『僕はもう死ぬからもう迎えに来ないでほしいし、家には帰らない』ていうので、結局六甲山上がって、多分近くの方まで行って、ドライブして、で、『もう僕は絶対帰らんからな』って言うけど、でもこのまま車で泊まったら寒いから、毛布取りに帰ろーって 、だましだまし家に連れて帰って、うーん。そうですね、連れて帰ったんですよね。 」
ナレ「その 3 日後、3 月 6 日のことだった。」
メモ「深夜、 私の首をしめる」
雅子さん「夜中にこっそり出て行こうとしたんですよ。それも、。出て行こうとしたので、もう足に夜中にしがみついて、もうやめてって言って、あのーお願いしたら、お前がおったら僕は死ねないって言って、馬乗りになって首を絞めてきたんですけど、優しい人なので、思いっきりしめるんじゃなくて、形上しめるくらいで、すぐ諦めてくれたんですけど、あの、死にたかったんでしょうね。」
ナレ「 翌日、俊夫さんは、雅子さんの出勤を見送った。その際、玄関でありがとうと口にしたという。その日の午後、俊夫さんは自宅の居間で首を吊って亡くなった。」
ナレ「今回の取材、そして初めてのテレビ取材でも、雅子さんは何度もインタビュー中、指輪を触っていた。その理由を聞いたところ・・」
雅子さん「これは私の結婚指輪じゃなくて、夫の。私のは太って入らなくなって、亡くなってからここにしていて、で、もう私は、家の荷物を全部処分して、私ももう、後追おうと思ってたけど、これだけはずっと身につけておこうと思ってたんで、なんかこれを触ってると、夫が近くにいるような気がします。」
ナレ「俊夫さんの死後、自宅を財務省や、近畿財務局の職員らが訪れた。報道特集はその場で録音された 7 人の音声データを入手。9 時間半に及ぶ音声記録の中で、彼らが雅子さんに語ったこととは？」
男性職員「 僕の立場もあって、これもですね、報道機関がね、変に赤木家に赤木さんの所にバンバン押し寄せたりしたら、もう、ほんまえらいことになりますから。ご遺族の気持ちも逆なでになるようなことも起こるかも分からない。」
（CM）
ナレ「赤木俊夫さんが亡くなった後、近畿財務局の直属の上司や、財務省の官僚らが、赤木さんの自宅へ弔問に訪れている。その際の会話が録音されていた。報道特集は、7 人の音声を入手。合わせて 9 時間半に及ぶ。」
ナレ「当時の財務省の秘書課長。俊夫さんがいた近畿財務局の統括官。管財部長ら 3 人は、重要な証言を残していた。俊夫さんが亡くなったおととし 3 月 7 日の翌日、 自宅を訪れたのが、近畿財務局の管財部長だ。」
"雅子さん「そこで自殺しました 。首を吊って」
管財部長「ど、ど、どこ？」
雅子さん「多分いま見ていると思います。」

管財部長「うん。こっこちらで亡くなったと？」"
ナレ「管財部長は、自宅を訪れて間もなく、雅子さんにこう切り出した。」
"管財部長（当時）「これは我々の話で、多分私も、何か遺書かなんかはあったん？」
雅子さん「ありました。一応遺書は私、預かっていますので、何か出さなければいけない時は、出すつもりでいます」
管財部長（当時）「どこに？」
雅子さん「どこに出していいのかも、」
管財部長（当時）「ちょっと・・・見させて」
雅子さん「それは見せるわけにはいかないです。はい。」
管財部長（当時）「そうですか。」"
ナレ「管財部長は遺書の存在を報道陣に知られることを恐れたのか、こう口にした。」
管財部長「ただ、ひとつだけ僕の立場もあって、これもあれですからね、報道機関がね、変にまあ家にこう、赤木さんのところにバンバン押し寄せたりしたら、もう、本当にえらいことになります。怖いですよ。おもしろおかしくして、ご遺族の気持ちも逆なでになるようなことも起こるかも分からん。そこはね、本当に気を付けて頂きたいと思うし、」
雅子さん「もう私ね、本当申し訳ないですけど、誰を信用していいか本当分からなくて、」
管財部長「うん。いや、それはもう、あの、奥さん」
雅子さん「申し訳ないんですけど、３人来てくださったんだけど、本当は何か探りにきたんだろうかとか、なんかそんなことばかり考えて・・・」
管財部長「いえ、それは違う」
ナレ「この時、財務省はまだ改ざんの事実を認めて居なかった。」
管財部長「ちゃんと事実が出るタイミングがあってね、たぶんそれが、はっきりしたことは言えませんけど、おっきな山が今週、来週なんですよ。」
ナレ「まもなく財務省が改ざんの事実を公表するかもしれないと、雅子さんに打ち明けていた。」
管財部長「もうなんで、こんな命を断つようなことをしたんだと思って、もう１、２週間待って、時というものがあってね、行政とこの事件のね。それがあったのになあと思いながらね、昨日電話もって思いながら、残念で。」
雅子さん「死んでしまったので、今さら待てば良かったとか言われても、」
管財部長「まあ、そうですよね。」
雅子さん「もう遅いです。」
管財部長「そうですよね。」
ナレ「財務省が改ざんを認め、公表したのは、俊夫さんの死の五日後だった。そして３カ月後、財務省は調査報告書をまとめた。」
ナレ「だが、財務省の報告書と、俊夫さんが遺した遺書には、大きな違いがある。最大の焦点は、当時財務省理財局長だった佐川信久氏が、改ざんを指示したかどうかだ。」
"ナレ「遺書には、」
遺書「元は、すべて、佐川理財局長の指示です。」"
ナレ「財務省の報告書では、」
報告書「理財局長からは、具体的な指示はなかった。国有財産審理室の職員から、書き換えを行うよう、具体的に指示をした。」

ナレ「この報告書を取りまとめたのが、当時の秘書課長、伊藤豊氏。実は、雅子さんに対し、報告書と異なる説明をしていた。」
伊藤氏「今から振り返れば、当然に、いくつも判断ミスをしていてですね、」
雅子さん「はい、でも夫は、もう最初から『こんなんしたらあかん』ってずっと言ってたんですよ。だから・・・」
伊藤氏「それが正しかったということですね。」
伊藤氏「本件については何段階もありまして、」
雅子さん「はい、難しいなあ」
伊藤氏「佐川局長の指示がですね、赤木さんまでに到達するまでにですね、途中に何人も止められなかった人たちなので、もしくは自分で手を動かしてしまった人たちなので、最後は彼（佐川氏）の判断ですね。そこはもう、理財局長の判断ですから、」
ナレ「伊藤氏は、文書改ざんは佐川理財局長の判断だったと名言したのだ。さらに」
安倍総理「私や妻が関係していたということになれば、これはもう、まさに、これはもう、私の総理大臣をもう、間違いなく総理大臣も国会議員も辞めるということははっきりと申し上げておきたい。全くの関係ないということははっきり申し上げておきたいと思いますし、」
ナレ「安倍前総理のこの答弁が、改ざんのきっかけになったのかという点も、大きなポイントだが、これについても伊藤氏は」
伊藤氏「野党は安倍さんの首をとろうとしているわけですよ。安倍さんがそうやって『関知していたら辞めてやる』っておっしゃったのが、２月の１７日なんですけども、あれで、まあ炎上してしまって、で、それで理財局に対する色んな野党の「あれ出せこれ出せ」っていうのがですね、これが増えているので、そういう意味では関係があったとは思いますね。」
ナレ「安倍前総理の答弁とその後の税務省の国会での対応などについては、関係があったと語った。音声の内容について、現在金融庁で、審議官を務めている伊藤氏に取材を申し込んだ。すると対応は財務省に一元化しているとし、財務省が回答した。」
財務省からの回答書「近畿財務局の職員がお亡くなりになったことについては、誠に残念なことであると、考えており、改めて深く哀悼の意を表します。そのうえで、ご遺族とのやり取りについては、コメントを差し控えます。」
ナレ「そして、もう一人の直属の上司、俊夫さんを最初の改ざんのために、職場に呼び出した近畿財務局の当時の統括官だ。この人物もまた、文書の改ざんは、佐川氏の判断と語っていた。」
統括官「改ざんというか、そこの部分がまあ一番赤木さんのところに関わるところなんですけど、初めっからまあ赤木さんは抵抗してました。ずっともう。どんどんどんどんエスカレートする中で、あの一今日、もうそれはもう耐えられない、正直、その、涙流しながら抵抗してた。もちろん、あの一判断は佐川さんの判断です。」
ナレ「この元統括官は、森友学園への国有地売却の際、地中のゴミの撤去費用、約８億円余りを値引いた根拠について、確証がないと話した。」
統括官「この８億の算出に、ただ、問題があるわけですね。確実に撤去する費用が８億になるかっていうところの確信というか、確証が取れてないんです。」
ナレ「さらに、重要な証言が」
統括官「赤木さんきっちりしてるから、文書の修正・改ざんの、その前の文書であるとか、修正後のやつであるとか、その何回かやり取りしたようなやつが、もうファイリングされてて、それがきちっと、ぱって見ただけで、分かるように整理された・・」

ナレ「俊夫さんは改ざんする前と、改ざんした後の文書を整理して、職場のパソコンに残していたという。改ざんの過程が分かる重要なファイルが存在しているということが、雅子さんに初めて伝えられた。」
統括官「これ見たら、我々どういう過程でやったかっていうの全部分かるって、それが原因で、僕であるとか、そういう人間が処分されるっていうことを気にしてるのかなって思ってたんです。検察ががさ入れに来た時にこれ、あるんですけど、これも出していいですかって聞かれたんです。で、そんなんは全部出してくださいと。全部見てもらってそれで、それで判断してもらっていいから、出してくださいと。」
ナレ「前政権に引き続き、菅総理は調査は尽くしたとの立場を崩していない。」
菅総理「これ財務省では調査しました。そして、検察でもまあ捜査を致しました。結果は出ているというふうに思います。」
ナレ「そして、昨日麻生財務大臣は、俊夫さんが作成したファイルに関する音声について、」
麻生太郎財務大臣「音声を聞いたことがあるか？ありません。」
麻生太郎財務大臣「音声データの話は、実はこれはもう訴訟に関わる話なので、これに対してなんていうの？コメントするということはありません。」
ナレ「妻雅子さんはこのファイルの開示を裁判で訴え続けている。」
金平「どっかにありますよね。まだ」
雅子さん「あると思います。ないとおかしいと思います。」
雅子さん「どのぐらいの量（改ざん）をして、それでどんぐらい、こう、そのことで夫は傷ついたのかを知りたいです。どういう内容の改ざんをしたかってすごく大事だと思うんですよ。」
雅子さん「誰かが再調査をしようっていう声を上げていただけたらなーって思います。で、裁判にもうちょっと真摯に取り組んで欲しいなーって思います。」
　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
膳場「亡くなった赤木さんが書き残した改ざんの経緯が書いてあるファイルというのは、関係者の間で、赤木ファイルと呼ばれていて、検察が押収したのであれば、捜査が終結した今は、一旦、近畿財務局に戻されているはずなんですね。その赤木ファイルの存在や、あと、経緯を語った上司の音声が公開されて、それでもなお、調査も捜査も尽くされたとして、国が情報開示に応じないとしたら、それはさすがに誠意が無さすぎですし、あと道理もとおらないことだと思うんですよね。あの一赤木雅子さんですけども、悲しみ、怒り、恐怖あったと思いますけど、今はどんなご様子でしょうか？」
金平「えーと、先ほど赤木雅子さんと電話で話したんですけども、とにかく誰かが勇気を以て話してほしいと。何があったのかを明らかにしてほしいと、えー、言ってましたですね。で、まあ私、取材している立場から申し上げますとね、関与したら当事者とか関係者っていうのが、おそらく、自分たちの良心に照らしてですね、おそらく苦しんでるんですよね。あのー、とりわけ、あの一佐川元理財局長とかですね、赤木さんの直属の上司ってのは知ってるわけですから、同僚は死んだわけでね、それで、その人たちにあくまで雅子さんの思いが届くことを期待したいなーというふうに思いますけどね。」
日下部「赤木雅子さんは、夫の死、そしてその後の政府の対応、なんどもなんどもこう、傷ついているし、真実が解明されない限り雅子さんの苦しみって続いちゃうわけですよね。」
金平「あの一取材でね、まあ、俊夫さんのスケジュールの手帳っていうのを見たんですけど、苦しみのあまりどんどんどんどん追い詰められていって、生きる希望を失っていくっていう過程がですね、見えて、とっても、生々しいものだったんですが、森友とか、加計とか、桜を見る限りというのは、前の安倍政権の負の遺産って言うふうに言われてますけども、菅さんは官房長官として、それらの出来事の実質的な、対処・処理にあたった当事者

であるわけでね。結果は出ているとか、捜査は尽くされたって、終わってないどころか、説明責任をちゃんと果たすのは、これからだというふうに思いますね。」

この特集に当てられた時間は 1480 秒だった。

この報道で取り上げられた音声は、「報道特集は俊夫さんの元直属の上司、7 人の音声を独自に入手しました。」とのことであるが、この音声が録音されたのはもう 2 年も前のことであることから、言い方は悪いが、赤木雅子氏がこの音声を今までずっと隠しておきながら「真実が知りたい」だとか「財務省は真相を解明すべき」と主張し続けていたと言える。そもそも、遺書にしても財務省が調査をしているときにはすでに存在していながら、赤木雅子氏はその存在を公にすることなく秘匿していたわけで、赤木雅子氏の対応にも問題のある点は多々あるように見受けられる。

とりわけ、真相の鍵となる可能性のあるような材料を持っていながらそれを秘匿しておき、他方で財務省や政府に対して真相解明を求めていく、という姿勢は不誠実極まりないものであり、そうした点を考慮するといかに遺族と言えども、赤木雅子氏の言説というのを手放しで信用するにはいささか心もとないものに思えてならない。

このように、赤木雅子氏の対応にも問題が多々あるにも関わらず、報道特集では徹頭徹尾赤木雅子氏の立場あるいはそれを擁護ないし支援する立場に立った報道、コメントを繰り返しており、本来なら行うべき証言・証拠の妥当性を吟味するというメディアの使命を放棄しており、そうした意味では放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」および同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らして深刻な問題を抱えていると言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

検証者所感

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「改ざんするとは辞書を引きますと元の文書を自分の都合のいいように書き直すこととあります。もともと 105 人の日本学術会議の名簿は 99 人になっていました。理由は示されていません。改ざんで決して忘れてはならないのが森友学園問題で公文書改ざんを黙せられた職員が自殺したという重たい事実です。特集でお伝えします。」とコメントしていたが、他方で、赤木雅子氏が遺書や音声データなどの重症な証拠を隠匿し続けていた、という事実も極めて重たいことではなかろうか。

・【特集】日本学術会議任命拒否問題のキーマン

スタジオでは日下部キャスターガ「ご覧いただいたね滝川事件の際の教授や学生たちの動きに比べるとどっちが現在でどっちが過去かちょっとわかんなくなってしまいますよね、滝川事件当時というのは軍が統制を強めていた時期でもありますし、そもそも明治憲法かでは学問の自由の記述がないんですよ、そんなときに教授や学生が学問の自由を声高に叫んでいる、正直言ってこんな事ができたんだという思いさえしました」とコメントしていたが、大学進学率が 50%を超えるような現代とは異なりごくごく限られた一部のエリートのみが旧制高校そして大学に進学していたような時代であることを鑑みると、当時の帝国大学生や帝国大学教授というのは現代とは比べ物にならないエリートあるいは特権階級であったと言える。他方、現代では大学生というのは比較的恵まれているとは言えども「特権階級」とまでいうようなものではないし、単に大学生であるということだけではエリートとまでは言えないだろう。

こうした時代背景の違いがあるからこそ、自分達のために税金が投じられ、その投じられた税金を当たり前のものとしてその上で税金に基づく自由も当然視できる、政府権力によって公費を投じられておきながら政府権力から超然とあることを当然とみなすというのは有る種の特権意識と言えるし、「代表なくして課税なし」という言葉に代表されるような民主主義や国民主権とはかけ離れた態度であるように見える。

そういう意味では今の大学生の方が有る意味では「慎ましく」なっているとも言えるし、国民主権を弁えているとも評価できるだろう。

日下部キャスターは「滝川事件の際の教授や学生たちの動きに比べるとどっちが現在でどっちが過去かちょっとわかんなくなってしまいますよね」とコメントしているが、やはり国民主権ではなく天皇主権の明治憲法下であればこそ、納税者から超然としたエリートたる大学に特権があって然るべきという発想に至るのではなかろうか。そういう意味では、「どっちが現在でどっちが過去かわからない」というよりもむしろ、滝川事件への学生の反応というのはまさしく国民主権の意識の希薄だった戦前のものだ、と言うことができるだろう。

・【特集】森友の公文書改ざん官僚たちは妻に何を語ったのか？

政府や財務省の対応は褒められたものではないが、赤木雅子氏の対応についてもかなり疑問や違和感を覚える点が多く、赤木雅子氏が提示してくる証言や証拠というのも、なぜそれを今の今まで隠していたのか、その目的や動機は何なのかという点では極めて怪しく思えてしまうのは私だけなのだろうか。